東邦学園広報

東邦キャンパス

vol. 117

平成 25 年（2013 年）７月 13 日
発行　学校法人　東邦学園
〒465-8515　名古屋市名東区平和が丘三丁目 11 番地
TEL 052（782）1241　FAX 052（781）0931
ＨＰ click! 検索　愛知東邦大学
東邦高等学校

90周年――地域の方々と歩む

創立90周年を迎えて、学園はにぎわっています。激動の歴史を振り返る東邦会の朗読公演、フレンズ・TOHOの記念講演には多くの方が参加され、感銘深い催しとなりました（２～３ページに記事）。

新入生の数もそうです。東邦高校は650人で、2004年度（673人）以来となる多くの生徒を迎えました。創立13年目の愛知東邦大学は、定員を超す361人で過去最多でした。「地域の学校」として育てていただいているからでしょう。

上の写真は５月12日の「名東の日」、高校ダンス部が成果を披露する様子です。平和が丘学区をはじめたくさんの方々が来校されました。東邦高校へ入学もしくは志願する中学３年生の比率は、名東区で３人に１人、千種区も４人に１人に達します。

地域の方々と防災・減災にも一緒に取り組んでいます。右の写真は６月22日、大学の地域創造研究所が開いた講演会です。東日本大震災で大川小６年の次女を亡くされ、生徒と一緒に悲しみを乗り越えてきた女川中・佐藤敏郎教諭のお話は、「感動的でした」というお声をいただきました（20ページに記事）。

90周年を迎えて、未来へ飛躍

文学座団員による朗読劇

1923年に生まれた東邦学園は、第二次世界大戦、焦土からの復興、右上がりの高度経済成長、失われた20年、大震災など激動の90年を経てきました。

90周年を記念して、東邦学園では関連団体を含めてさまざまな行事が開催されています。

10月26日(土)に創立90周年記念「講演と文化の集い」、10月31日(木)には東邦学園90周年記念式典・祝賀会を開催する予定です。

東邦学園は今後も建学の精神『真に信頼して事を任せうる人格の育成』を柱に据え、未来に向けて飛躍していきます。

6月23日(日)に行われた創立90周年記念招待試合
東邦高校硬式野球部×智辯和歌山高校

90周年ロゴマークは東邦高校美術科
２年　石川陽菜さんの作品です。

東邦会　90周年記念公演

東邦会事務局

江守徹さんの迫真の朗読

今年度、東邦学園は創立90周年を迎えました。東邦高校の同窓会組織である「東邦会」も学園創立90周年にあわせ、５月18日に記念総会を実施しました。

テーマは、100周年を見越し「次代へ紡ぐ」と掲げました。数々の変革と共に歴史を刻んできた東邦高校を同窓生として再認識する。そのために時代の変遷と共に成し遂げた歴史の一面を映し出す東邦オリジナル朗読劇を企画しました。

東邦の数ある歴史の中でも、今回取り上げたのは「戦争と平和」「男女共学」「美術科創設」の３つの出来事です。それぞれのテーマに基づき約10分間のショートストーリーが生まれました。朗読劇は江守徹さんをはじめ文学座団員のみなさんに演じていただきました。今回はただ朗読劇を楽しむだけでなく、演出として本校美術科の卒業生の方にテーマに即した作品を提供してもらいました。

オリジナルである朗読劇のストーリーを制作するに当たり、卒業生の方やＯＢ教員から当時の貴重なお話や資料を見せていただきました。当時のことを鮮明に語ってくださる姿は、90年の長い年月を感じさせない瞬間でした。

総会当日は、300人近い卒業生や教職員の方々にご参加いただきました。懐かしの校歌や旧友・恩師との再会。月日が流れても変わらない東邦魂を感じた90周年記念総会となりました。

東邦創立90周年記念講演「世界が注目する朝鮮半島」

東邦学園「フレンズ・TOHO」事務局

学校法人東邦学園と東邦学園「フレンズ・TOHO」の共催で６月18日（火）に東邦創立90周年記念・「フレンズ・TOHO」総会記念講演を行いました。（於：名古屋東急ホテル）

講師は、コリア・レポート編集長　辺（ぴょん）真一（じんいる）氏。北朝鮮の若き新しい指導者、キム・ジョンウンの指導により、朝鮮半島をめぐる情勢は、世界から注目されています。わが国にとってもお隣、歴史的にも深いつながりがあります。

朝鮮半島について語る辺真一氏

飯島勲内閣参与が５月に訪朝したことに、多くの日本人が驚きました。彼は個人的な理由で訪問したわけではなく、安倍総理の事実上の「特使」として訪朝した可能性が高いようです。目的は公表されてはいませんが、北朝鮮が日本との関係改善を模索しているのでないかと推察されます。

歴史を紐解くと、金丸信自民党元副総裁、小泉元総理らがどのような役割を果たしたか、歴史が動く微妙な文（あや）を見る思いで、200人の参加者は、身を乗り出して聞き入りました。

高校の行事

１年生学級合宿 思い出に残る二日間

１年生学年主任　桜井　秀樹

新入生恒例の行事「学級合宿」が４月24日（水）～26日（金）の期間、前団（三重県湯の山）・後団（岐阜県恵那）に分かれ１泊２日で実施されました。

前団は朝からあいにくの雨ではありましたが、元気に出発していきました。

午前中は校長先生から東邦高校の建学の精神、校訓の意味、高校生活の目標などの講話があり、午後からはクラスの親睦を深めるバーベキューやレクリエーションが行われました。前団は雨のため、煙との戦いもあり悪戦苦闘のバーベキューでしたが、ドッジボールでは大いに盛り上がりました。後団はうって変わり好天に恵まれ、自然のなかで大縄跳びやハイキングを楽しみました。

生徒たちはこの二日間でクラスの友情を深め、高校生活の目標や決意を固め、思い出に残る学級合宿を無事終了しました。

２年生遠足 爽やかな一日

２年生学年主任　濱砂　孝

遠足の前日は雨が降り、生徒も教員も空を見上げながら心配していましたが、当日の４月25日（木）は前日の雨が嘘のように晴れ空が広がり爽やかな一日を迎えました。

２年生はクラスの親睦と団結を深めるため、遠足の行き先を各クラスで候補地の中から選んで実施しました。G・I・J・L・M組の５クラスは八曽自然休養林、B・F・H組の３クラスは定光寺キャンプ場、C・D・E・K・N組の５クラスは八風キャンプ場、A・O組の２クラスはリトルワールドと４カ所に分かれました。

リトルワールドは世界の建築物を散策しながら歴史と風土の違いを肌と目で感じ、世界に思いをはせるという貴重な経験をしました。

各キャンプ場は、ハイキングを楽しみながらクラスの親睦を深め、各班に分かれバーベキューを行い、食事をしながら親交を深めることができました。

各クラス、各班ごとに良い思い出ができお互いを理解し合えたことは、新学期当初クラス替えでなんとなく遠慮していた部分がとれ、明るい顔と屈託のない笑顔が増えたことが物語っています。

３年生遠足 伊勢神宮などへ元気に

３年生学年副担任　吉山　奈緒子

前日の曇り空から一転、朝から好天に恵まれて、高校生活最後の３年生の遠足は、思い出に残る楽しいものとなりました。おかげ横丁へは、11クラス400人近い大所帯で出発しました。

伊勢神宮は、今年20年に１度の式年遷宮の年にあたります。いつもとは少し様相が異なる伊勢神宮をガイドさんの説明を受けながら見学し、お参りをしました。生徒たちがお参りをする後ろ姿は、真剣そのもの。私もみんなの志望校合格をお祈りしました。

さあ、どこへいこうかな

伊勢神宮の厳かな雰囲気を味わった後は、気の合う仲間で、食べ歩きをしたり、お土産を買ったりとわいわいとにぎやかにおかげ横丁を散策。高校生活の楽しい思い出がまたひとつ増えた、そんな春の１日となりました。

東邦生が手がけた「藤が丘案内図」完成

地下鉄東山線「藤が丘駅」高架下にある商業地図のリニューアルを東邦高校がお手伝いさせていただきました。地図の機能を果たしながらも「藤が丘らしさ」のメッセージを発信するイメージマップの作成です。本校が若い感性と柔軟な発想を基に提案し、商店街振興組合の方々と度重なる打ち合わせを重ね様々な要請を受け止めて取り組みました。

この藤が丘イメージマップの制作は、東邦高校が取り組んでいる「キャリア教育」の一環であり、藤が丘商店街の役員方との意見交換や現地調査等を通して、生徒たちは作品を作るだけなく「仕

事」をする意義なども学びました。

完成した案内図は、マップとしての見やすさはもちろん、老若男女に受け入れられ斬新さを売りにできる“トリックアート”ができました。リニューアルされたイメージマップに隠された「藤が丘」を是非皆さまも一度ご覧ください。

平成24年度　高校卒業式
未来への夢に向かって

東邦高等学校の第64回卒業証書授与式が、３月１日(金)に本校体育館にて挙行されました。当日は天候も良く、穏やかで卒業式にふさわしい日和でした。

式典は、体育館に在校生・教職員・卒業生の父母約500人が待つ中、卒業生508人がＡ組を先頭に緊張感を漂わせながら担任を先頭に整然と入場しました。式は、式次第にのっとり、全員による校歌斉唱より始まり、厳かな雰囲気の中ですすみました。卒業証書の授与は、クラスの代表者がその責任感を表情に漂わせ、それを見守るクラスメイトは緊張の中に晴れやかな表情で自らの代表を見守っており、各々の高校生活での思い出を胸に、新しい生活に対しての期待が感じられました。

在校生代表の生徒会長牧田有紀さんの心温まる送辞が、卒業生たちの高校での思いをさらに深くさせました。卒業生代表の木村海南波さんの答辞は、入学時からの３年間に思いを馳せ、深い感動の中これからの自分たちの将来に向けて力強く進むことを宣言しました。そして退場時は、卒業生全員が参列者から温かい拍手を浴びて退場しました。このように式典は厳粛な中にも心温まる内容を含んで終了しました。

式後は、各教室で最後のホームルーム・各担任による餞の言葉を受けて、クラスメイトとともに名残を惜しみました。その後中庭において、恒例となっている部活動の生徒や在校生による卒業生の追い出しが華やかに行われ、後輩などに見送られ、３年間の思い出を噛みしめながら校門を離れていきました。

高校　卒業記念品は大型テント４張

2012年度卒業生一同から卒業記念として大型テント４張りが学校へ寄贈されました。スクールカラーの緑を基調としたデザインで、文化祭や体育祭の学校行事や各種イベントなどに活用されます。また、防災用にも貴重な備品として整備することができました。

平成25年度　高校入学式
新たな一歩を緊張とともに

平成25年度の東邦高等学校入学式は4月6日(土)に新入生651人を迎えて、本校の体育館で行われました。当日は春の日差しがそそぎ、その中で今を盛りと桜の花の満開の中、3月の卒業生よりも約140人多いA組からP組まで16クラスに及ぶ巨大学年の生徒たちが、真新しい制服に身を包み誇らしげに校門をくぐりました。

吹奏楽部が後輩の入学を祝って奏でる中、式典が始まりました。入学生は父母と隣りあわせで着席し、互いの表情はまさにその日の天候のように晴々としていました。長沼校長は､｢私学は学校によって人材育成に特有の目的を持っている」こと、本校は創立者の下出民義先生が掲げた「真に信頼されて仕事を任せられる人、社会に役立つ真面目な実業人を育てよう」という理念を掲げて「真面目」が校訓であることとその目的にたつ本校の歴史に触れ、私立学校である本校の存在意義を分かりやすく語られました。

これに対して新入生代表の大坂凌平さん(藤岡中学出身)が「誓いの言葉」を述べ、新入生一同、心を新たにしていました。

式後、各教室で新担任からクラス方針や高校生活における心構えなどについて話があり、新たな夢と希望をもつことができました。さらに玄関付近において、生徒会主催の新入生歓迎のイベントがなされ、父母ともども本校に入学したことを実感する時を持つことができました。

大学の行事

子ども発達学科１・２年生 合同オリエンテーションで交流

子ども発達学科助教　西濱　由有

子ども発達学科の新入生のみなさんに、先輩・同級生・教員と共に「子どもの遊び」について理解を深めながら交流することを目的として、４月９日(火)恒例の１・２年合同オリエンテーションを実施しました。

企画・進行は2年生が中心となって行い、午前中は地球市民交流センターで「交流会」として「ペットボトル倒しゲーム」「手遊び」「ダンス」「造形活動」などを実施しました。新しい仲間との楽しい触れ合いに、少し緊張がほぐれた様子でたくさんの笑顔が見られました。

午後は愛知県児童総合センターに移動して「児童総合センターと子どもの遊び」についての講義を受けて、グループで施設見学をしました。新入生のみなさんは、素晴らしい施設にたくさんの刺激を受けて、これから始まる子ども発達学科での新しい学生生活に期待と夢を膨らませていました。

先輩に続け！　教職課程履修学生 本学初の公立学校専任教員が誕生

中高教職課程委員会

愛知東邦大学では中学校・高等学校の教員を目指す『教職課程』を2006年度に開設して以来、4回にわたり卒業生を送り出してきました。これまでの免許取得者数は経営学部・人間学部合わせて保健体育89人、商業3人、合計92人となっています。そのうち20人を超える卒業生がすでに、中学校や高等学校の教壇に立っています。今春は本学初の公立学校専任教員も誕生しました。愛知県立高等学校と名古屋市立中学校にそれぞれ1人、いずれも保健体育の先生として勤務しています。

今年の4年生も先輩に続けとばかりに、この夏の採用試験に向けて頑張っています。週に一度、授業が終わった後に集まって試験対策の学習会に参加し、お互いに刺激しあいながら夢の実現に向けて取り組んでいます。8月には一次試験合格者を対象に二次試験に向けた小論文・面接試験対策講座も行われます。また4年生に触発されたのか、3年生からも対策講座を希望する声があがって、夏季集中講座を行うことになりました。

教師になる道は簡単ではありませんが、「先生になりたい！」という熱い思いを胸に秘め、日々の学習に努めてもらいたいと思います。

就職支援

就職委員会

就職委員会では早くから学生の就職意欲を高め、就職活動への取り組み支援を目的としたイベントを実施しています。その１つが３年生対象に開催した「就職合宿」です。講師として企業の採用担当者をお招きし、グループワークや模擬面接など、本番をふまえた実践型プログラムで学生の活動意欲をさらに向上させ、実践に結びつけることを目的としています。参加した学生からは「自分の力不足を認識した」「厳しい言葉をもらい、辛いながらも成長することができた」など、９割以上の学生から「就職合宿が役に立った」という声が聞かれました。

また、就職合宿の成果を発揮する機会として、２月末には約50の企業や団体に出展していただき、「第１回就職支援相談会」を開催しました。多くの学生がこの相談会でのご縁をきっかけに内定に結びつけることができています。

就職合宿

留学生交流会

学生課課長補佐　阪口　将史

４月10日(水)に学生会主催・留学生交流会を星が丘ボウルで行いました。入学したばかりの留学生も在学生と楽しくボウリングをし、留学生たちからは「東邦でよかった！」という声も聞けました。

当日は留学生と学生会・女子サッカー部・吹奏楽団・一般学生・教職員あわせて100人超が参加し大盛況でした。

国際交流

地域国際交流委員長　御園　慎一郎

愛知東邦大学の行っている国際交流事業は「受け入れた留学生の支援活動」と「国際的な友好・提携関係

姉妹校で発表する大学生たち

を結んだ大学(姉妹校)との間で行われる学生・教員の派遣活動」の二つに大別されます。

留学生の受け入れに関しては、中国を筆頭にベトナム、韓国などからの留学生を受け入れて彼らの日本国内における生活、勉学の支援を行うとともに、学生間の交流を通じての相互理解の場を設けています。

本学の国際交流の起点となる姉妹校は、アメリカ、ワシントン州のエベレット・コミュニティカレッジ(EvCC)、スウェーデンGöteborg Univ. 中国雲南大学、ニュージーランドLincoln Univ. イギリスMiddlesex Univ. と学術協力や交流に関する協定を結んでいます。そしてこれらの協定に基づき本学学生が短期海外研修や中長期留学を行ってきました。また、先方からの短期研修も積極的に受け入れてきました。教員の交流も行うことによって国際交流の実績を重ねてきています。

さらに今年からフィリピンUniv. of San Carlosとも協定を結び国際交流のネットワークを広げています。

今後もグローバル化の時代に対応した人材育成活動を積極的に展開してまいります。

おかえりなさい！ —第3回「ホームカミングデイ」を開催 子ども発達学科

子ども発達学科教授　堀　篤実

5月26日(日)、第3回子ども発達学科「ホームカミングデイ」を開催し、1・2・3期生と関係教職員が本学に集いました(退職された矢藤先生、森さんも駆け付けてくださいました)。ホームカミングデイは、近況報告を交わして歓談することで、

卒業生がこれからもがんばるエネルギーを補給してくれればと考えて催しているものです。

学生生活との違いに戸惑いながら仕事に苦闘している3期生がいれば、仕事の楽しさややりがいなど充実した様子を報告してくれる1期生もいました。同期や先輩の卒業生、教職員と交流することで表情が和らでいく参加者を見て、胸が熱くなる思いで、こちらの方がエネルギーを頂いた気分になりました。

なお、この会は邦友会の多大な援助を受けて実施することができました。記して御礼を申し上げます。

図書館探検をしよう！

大学図書館

1年生の基礎演習を対象とした「図書館ガイダンス」を、4月～5月にかけて行いました。

図書館ガイダンスでは、開館時間や貸出冊数といった基本的な事項から、本の探し方、webOPACの利用方法、館内の案内などを、学科やゼミの希望ごとに組み合わせて実施しています。

今年度ははじめての試みとして、“図書館探検”を一部のゼミで実施しました。

学生たちが館内を歩いて10問程度の問題を解いていきます。

説明ばかりで退屈し始めていた学生も、「このコーナーどこだった？」と友達に聞いたり、「これってどこにあるの？」と職員に尋ねたりしながら、館内を歩いてまわって一生懸命問題に取り組む姿を見ることができ、“図書館探検”に一定の手ごたえを感じることができました。

これを機に、これから学生生活で図書館を有意義に活用してくれることを期待しています。

平成24年度卒業証書授与式

平成24年度愛知東邦大学卒業証書授与式が3月19日(火)に、大学スチューデントホールアリーナにて

行われ、経営学部112人、人間学部95人が卒業しました。式典は愛知東邦大学吹奏楽団の厳かな演奏に始まり、卒業生代表に卒業証書が授与されました。その後、学業や正課外活動において優秀な功績を収めた学生に表彰状が贈られ、続いて優秀な成績を残した女子サッカー部と軟式野球部のクラブ表彰が行われました。

平成25年度入学式

4月6日(土)、大学スチューデントホールアリーナにて入学式が挙行されました。

本年度の新入生361人が、これからはじまる大学生活に期待を膨らませて祝辞に耳を傾けていました。

入学式後、学生たちは学科別に分かれ、ガイダンスや懇親会で新しい仲間たちと交流をはかりました。

校歌を作ろう

さあ歌おう！我らの歌を！

校歌作成ワーキンググループ　白谷　峰人

愛知東邦大学に校歌ができます。

学園創立90周年を期に、大学に校歌を！ということで作ることになりました。作詞は劇作家・演出家でジャニーズのミュージカルを多く手がけていらっしゃる森泉博行氏に、作曲は作曲家・編曲家で吹奏楽界では神ともいわれる真島俊夫氏に依頼をしています。

歌詞を作成するにあたり、作詞担当の森泉氏から「歌詞はみんなで作りたい。学生の皆さんや教職員の方々から東邦にまつわるキーワードを集めてほしい」ということで、学内にて東邦をイメージする言葉（ワード）を集めることになりました。ワード応募用紙を配布しました。また「TOHO　WAI　WAI　WORD！」と題して３日間にわたりワードを集めるイベントも開催し、多くのワードが集まりました。一覧にまとめた結果は「東邦に行ったことがなくても東邦がどういうところかわかる」というくらい豊富でした。現在このワードを元に作詞されています。歌詞が完成したらその歌詞に曲がつきます。

明るくさわやかでありながら、落ち着きがあり、格調高い、一度聞いたら忘れないような曲を期待しています。

お披露目は今年の秋。みなさんお楽しみに。みんなで一緒に永遠に歌い継いでいきましょう！

学生の意欲を育てる 就業力育成マイスター奨学生制度

学修支援センター運営委員長　中山　孝男

愛知東邦大学では、学生に勉学や課外活動などを通じて「就業力」を向上させた学生に奨学金を支給する「就業力育成マイスター奨学生制度」を設けています。

この制度は、学生自らの意思でエントリーした後、学業成績および地域活動あるいは大学の様々な活動などに参加することや、ポートフォリオで自己の振り返りを行うことといった、定められた条件を満たした上で、審査を通ると奨学金が授与されるものです。ランクにより奨学金の金額が変わりますが、学生の努力で勝ち取ったものであるためか、決定通知をもらった学生は大変喜んでいます。また、この制度は在学中に３回応募することが可能で、認定された学生は次もがんばろうという気持ちで取り組みます。

このように「就業力育成マイスター奨学生制度」は、学生が自ら目標を立て、勉学及び課外活動等に積極的に参画して自己変革にチャレンジする「真面目」な学生の活動を奨励しています。

教員の書籍紹介

古市　久子　編著

「保育表現技術 豊かに育つ・育てる 身体表現」

ミネルヴァ書房

身体表現について、今までの方法とは違う「双方向性を利用した目からうろこの指導法」として出版されました。

内容は今まであまり明らかにされてこなかった身体表現についての理論、多くの実践方法や事例、ほとんど書籍化されていない身体表現の指導案も掲載しています。保育者養成校の教科書としてだけではなく、現場や研究者にも使ってもらえる本です。

寺島　雅隆　著

「起業家育成論」

唯学書房

起業家とは、社会を破壊的イノベーションで活性化させていく異分子であり、経済活性化のために欠かすことのできない存在です。本書では、様々な教育機関において試行錯誤が続けられている起業家育成の取り組みについて理論とモデルを整理し、その上で新たな具体的手法を提示しています。なお、本書はフレンズ・TOHOの出版助成金を得て出版されており、アマゾンから購入可能です。

クラブ活動
高校

ダンス部

全国高等学校ダンスドリル選手権大会2013・東海大会を終えて

ダンス部顧問　伊藤　惠子

今年はHIPHOP男子編成（SMALL）と女子編成（MEDIUM）の２部門にチャレンジしました。部員56人と大所帯となり、練習場所を工夫しながらの取り組みでしたが、おかげで男女共に一昨年、昨年に引き続き全国への切符をいただくことができました。部員の頑張りはもちろんですが、何よりも周りの方々の励ましと支えのおかげです。本当にありがとうございました。

男子作品『Invader Baby』、女子作品『Kung-fu-SOUL』、イメージを大切に作者と共に皆で創り上げました。東京体育館で８月にある全国大会に向けて、心を一つにして頑張りますので、応援よろしくお願いいたします。

アーチェリー部

東海高等学校総合体育大会出場報告

アーチェリー部顧問　齊藤　卓哉

今年度のアーチェリー競技の東海高等学校総合体育大会は、合歓の郷スポーツスタジアム（三重県志摩市）で開催され、女子団体３人と男子個人１人が出場しました（全員３年生）。特筆すべきは14年ぶりに男子が出場したことです。

結果は女子団体７位、男子個人18位でした。入賞を目指していた生徒たちとしては不本意な結果だったようですが、善戦したと思っています。４人とも大学でもアーチェリーを続けると言っており、今後の活躍にも大いに期待しています。

軟式野球部

春季東海大会優勝
～夏の全国大会出場に弾み～

軟式野球部部長　寺島　多岐夫

軟式野球部は、愛知県代表として６月15日・16日に開催された春季東海大会に出場しました。三重県の安濃中央公園野球場を会場に、初戦は静岡県代表の浜松商業高校に２対０で完封勝利。エース田原（３年）を中心に堅守で勝ち上がりました。翌日の決勝戦では、岐阜県代表の多治見北高校と対戦しました。１対１の同点で迎えた９回裏、ツーアウトランナー２塁から代打前川（１年）がタイムリーヒットを放ち、劇的なサヨナラ勝ちをおさめ、優勝旗を手にすることができました。これまでチームをずっと支えてきた女子マネージャー達（各学年１人）の喜びの涙が印象的です。

選手たちには、これで満足することなく、夏の愛知県大会優勝、さらに東海大会を勝ち抜き、憧れの明石球場で開催される全国大会出場を念頭に、さらに努力してもらいたいと考えています。

クラブ活動 高校

硬式野球部

最後の試練

3年　髙木　拓也

あと一歩で甲子園出場を逃した昨秋の東海大会。次の日から、自分たちの最後の戦いは始まりました。周囲からの厳しい声もありましたが、部長や監督、コーチなどの温かい言葉を支えに、私たちは夏の甲子園出場を誓い、毎日厳しい練習に耐えました。自分たちを限界まで追い込んだ年末のグランド合宿。両手がボロボロになるまで打ち込んだ千本のティーバッティング。朝が来るのが嫌になるような冬を越え、ついに球春到来。しかし、県大会では、夏のシード権を獲得できませんでした。

「もうチャンスは１回しかない。」辛い思い出のほうが多かった２年半を、共に支えあった仲間と挑む最後の夢舞台です。最高の仲間たちと１日でも長く野球ができるように、全力で戦い抜いていきます。そして、今まで支えていただいた全ての人へ感謝の気持ちを忘れず、勝利で恩返しをしたい。120人の試練が始まっています。

サッカー部

全国高等学校選手権大会に向けて

サッカー部顧問　澤田　洋平

日頃から、サッカー部のご支援、ご協力に感謝いたします。昨年度は皆さまの応援をいただき、冬の全国高校選手権大会出場を果たすことができました。

現在東邦高校サッカー部は90人の部員を抱えています。サッカーのプレーももちろんですが、大規模な部活だからこそ学校生活などで自分勝手な行動は許されません。学校生活では、一人ひとりがクラスなどでの規律を守り、学業も怠らず必死に取り組みます。また、部活動では全国大会出場という目標を持ち、激しいレギュラー争いをする文武両道な“さわやか東邦生”の模範となるようなチームを目指したいと思います。

チーム一丸となり、日々の練習に励み、二年連続の全国高校サッカー選手権大会出場を目標にしています。ご声援よろしくお願いいたします。

空手道部

インターハイ出場決定

空手道部部長　村田　悟

女子団体組手二年連続19回目、この夏の長崎路インターハイ出場を勝ち取った。

我が空手道部は、1973年創部。この40周年を機に貫名正樹監督が第二代に就任、昨年度から井内慧子コーチを戴き、新年度をまたさらに勢いよくスタートした。

１年生は７人、総勢26人で活気は十分。春の選抜出場を逸し、長い冬季の遠征は、静岡は三回、長野、岡

山と足をのばした。雌伏の時。体力づくり・練習試合と主将・片尾もよくチームを率いた。石川も副将としてよく支えた。

そして５月。インターハイ県予選。体力・技量はここまでくればあとは「気持ち」だけだ。女子団体組手のみの出場とはなったが、全員空手の成果だった。５人制で二対二。イーブンかと思いきや、獲得ポイント数が上回った。みんなの力で勝った。父母の声援、一家そろっての声援。ＯＢは遠くは東北から駆けつけてくれた者もいる。ありがたい。本当にありがたい。不器用なお礼を述べたが、秘かに涙がでたことを告白する。今年も新たなドラマが生まれたと思っている。長崎、精一杯闘うのみだ。

水泳部

浜名湾高校生選手権水泳競技大会に行ってきました

水泳部顧問　牧野　雅司

６月１日・２日に行われた浜名湾高校生選手権水泳競技大会に、今年も参加してきました。２泊３日の遠征では、自己管理が基本です。いかにして自分の力を最大限に発揮するか、自分なりに考えて行動しなければなりません。食事、休養、睡眠など、日常的に行っていること全てが競技の成績につながっていきます。

特に食事については、東邦水泳部ＯＧによる栄養講習を受けての参加です。何を、どのタイミングで、どれだけ食べるか。きちんと考えることが必要です。

競技成績はまだまだでしたが、その後の練習に今回の経験が生かされている様子が見られました。今後の成長が楽しみです。

吹奏楽部

感動を与える演奏をめざして

吹奏楽部顧問　古野　達也

吹奏楽部の演奏・演技を多くの方に披露する機会は年間30回を超えます。部員たちはそれぞれの本番で出会った方々に感動や喜びを感じていただけるよう、手を抜くことなく日々練習に励んでいます。そんな部員たちのステージがテレビ局の方の目にとまり、昨年テレビ放送されました。この放送を通して、高校生のひたむきで真っ直ぐな姿、高い目標に向かい妥協することなく練習に励む姿など、我々の活動を全国の方々に紹介するよい機会になりました。

今年は37人の新入部員を迎え、吹奏楽コンクール（７月下旬から）、マーチングコンテスト（９月中旬から）、そして、第58回定期演奏会（2014年１月13日）を活動の大きな柱としながら、また新たな活動を展開していきます。

東邦高校吹奏楽部定期演奏会

日時：2014年１月13日（祝）
場所：愛知県芸術劇場　大ホール
※詳細は決まり次第ホームページなどでお知らせします。

クラブ活動 大学

硬式野球部

愛知大学野球　春季リーグ戦　３部優勝！入替戦勝利！２部復帰決定！

硬式野球部部長　深谷　和広

平成25年度愛知大学野球春季リーグ戦（３部）が４月６日～５月30日の期間で行われました。横道監督の指揮の下に部員一丸となって、３部リーグ校、名古屋市立大、愛知淑徳大、大同大、豊橋科学技術大との２か月にわたる熱戦、激闘を繰り広げてきました。その結果、愛知東邦大は８戦全勝し、３部リーグ優勝という素晴らしい成績を残すことができました。

６月１日、２日の２部リーグ名古屋学院大との入替戦に臨み、両日とも勝利を勝ち取って、念願の２部復帰を勝ち取りました。関係者の皆さんからの硬式野球部への熱烈なご声援ありがとうございました。瑞穂球場に来場された方々の応援の声が大きな力になりました。

横道監督の指揮のもと、部員一丸で日々の練習に邁進し、さらなる高みを目指します。秋季リーグ戦（２部）に万全の態勢で臨みます。引き続き盛大なるご声援のほどよろしくお願いします。

男子サッカー部

チーム一丸となり１部昇格をめざす

人間健康学科１年　平松　卓也

男子サッカー部は、東海学生サッカー連盟に所属しています。私たちの目標は東海学生サッカーリーグ１部に昇格することです。２部に上がって３年目で、現在は３勝２敗で５位とまだ昇格圏内を狙える位置にいます。前期残り４節を確実に勝利し、後期に繋げていきたいと思います。去年１部に上がれなかった先輩たちの悔しさを忘れることなく、昇格のため日々トレーニングに励んでいます。監督やスタッフ、選手がチーム一丸となり、目標を成し遂げるため努力し続けます。

また、サッカーだけでなく学校生活でも模範になるよう心掛けています。そしてサポートしてくださる全ての人たちに感謝することを忘れず生活していきたいと思います。今まで以上の温かいご支援、ご声援のほどお願いいたします。

女子サッカー部

「日本一応援されるチーム」を目指して

人間健康学科４年　寺田　真有

女子サッカー部は、2012年度悲願のインカレ出場を果たすことができました。創部６年目にして、このような快挙を実現できたのは、土台を築いてくれた先輩方や周りの方々に支援していただいたおかげです。また、インカレ出場と同様、目標であった東海リーグ昇格も果たすことができました。

今年度の目標は、インカレ出場、東海リーグ１部昇格、愛知県選手権優勝です。昨年度の成績を上回れるように取り組んでいます。もう一つ目標を掲げています。それは、“日本一応援されるチーム”、“日本一愛されるチーム”になることです。これは、日々の学校生活、地域活動に貢献すること等で一人でも多くの人に応援されるように、そして愛されるようにという意味です。

昨年度、インカレに出場した際、本当にたくさんの人が遠い所まで足を運んでくださったり、声をかけてくださり、多くの人に応援されていると実感しました。今年度も、愛されるチームになれるように努力してまいります。ご指導、ご支援の程よろしくお願いします。

吹奏楽団

新メンバーでスタート

愛知東邦大学吹奏楽団団長　濱野　梓

４月から新入部員が３人加わり14人で活動をスタートしました。５月12（日）には平和が丘春まつりでは

大学・高校の両会場で演奏をさせていただき、今年全員で初めての本番となりました。

今の時点でも、当初予定していた年間予定よりも本番数が増えてきています。さまざまな場所で演奏演技できたり、たくさんの人に聴いてもらえる機会があるのは嬉しい限りです。だからこそ、一つひとつの本番を大切にし、クオリティーを高め、次へと活かせるものにしていきたいです。

今年は第４回定期演奏会を12月28日(土)に行います。団員一同お待ちしておりますので、ぜひお越しください!!!

第４回定期演奏会　入場無料

日時：12月28日(土)　開場16：00 開演16：30
場所：名東文化小劇場

空手道サークル

サークルつくりました

地域ビジネス学科２年　佐野　良輔

私たち空手道部は去年の秋に創設し、現在は男女含め５人で活動しております。まだサークルなのですが、毎週大学内のB001教室で火曜日と木曜日に18：00～20：00に練習しています。

経験のある先生もいて、主に和道流という流派を習っています。部活の中には、剛柔流、松濤館流、糸東流など色々な流派を習っている人もいて、別の流派を習うこともできる環境に恵まれています。全員が経験者というわけではなく、中には大学から始めた人もいますが、大会などに出場して勝てるように、審査で受かるように、正式な部活になれるように、と色々な目標をもって楽しんで活動しています。

軟式野球部

楽しく自主的に活動中！

軟式野球部顧問　村松　芳紀

昨年度主力であった学生たちのほとんどが卒業しましたが、今年度はまた新しいメンバーが増え３年生５人、２年生７人、１年生５人、マネージャー１人の計18人で活動しています。

２年生の新しい主将を中心に週２回の練習や試合などをこなし自主的に運営しています。今年度も全国大会に出場できるように頑張ります。応援をよろしくお願いいたします。

料理サークル

料理サークル発足１年

料理サークル顧問　尚　爾華

愛知東邦大学料理サークルは2012年４月に入学した人間健康学科の吉永寛奈、吉田毬乃を中心に８人でスタートし、２年目に入りました。

昨年はその季節に合った野菜を使った料理を作るなど、合計８回調理実習をしました。このサークル活動を通じ、一人暮らしの学生が自炊するようになったり、苦手な食べ物が食べられるようになったり、食材一つひとつの美味しさを知ることができました。今年はいろんな国のご飯を作ることと、プロのシェフを招いて勉強会を開催する予定です。

調理実習以外では本学Ｃ棟104教室に集まり、栄養のバランスなどについて学びます。

また、大学祭では温まって美味しい小龍包を目標の200食完売し、「名東区民祭り」では料理サークル普段の活動成果を披露しました。

嬉しいことに、現在のメンバーは両学部三学科から１年生、２年生の14人の他、経営学部の教員も参加されています。

キャンパス短信

法人

「21TOHO教育充実事業募金」～ご協力に深謝～

21TOHO教育充実事業募金事務局

学園では教育環境整備、施設設備の充実、教育研究活動の奨励に取り組むため、21TOHO教育充実募金活動を展開しております。これまでにも多くの方々から多額の募金を頂戴し、高校新校舎の建築や大学新学部の増設およびグラウンド新設のための資金として運用させていただきました。

皆様方からのご支援に対しては、「人格教育」を重視する建学の精神に立った21世紀に有意な人材を育て、卒業生が実業界をはじめ各界で活躍することで恩返しさせていただきたいと考えております。

なお、募金についての要項ならびに寄付金の免税措置につきましては、大学・高校の各ホームページにも掲載しております。今後ともご理解を賜り、ご賛同いただけますよう衷心よりお願い申し上げます。

大学・高校

高大連携教育 東邦高校生が大学で授業を体験

高大連携会議　齋藤　周一

今回で３回目となる、高大連携教育が２月13日（水）に実施されました。今回は大学の耐震補強工事の関係で、移動経路が制限されるなど若干の不都合がありましたが、高校・大学双方の担当者の努力により、大きな混乱もなく終了することができました。

当日は高校の時間割を特別に午前3限、午後3限に分け、午前中は2年生が、午後は1年生がそれぞれ美術科と普通科の一部コース以外の生徒が約20講座の中から講座を選択して受講しました。

今年は、昨年と少し手順を変えて生徒は自分の選んだ講座が行われる教室へ直接移動して、そこで大学の概要説明と希望の講座を受講するようにしました。移動がスムーズになり、時間短縮にもなったようです。

講座を担当した大学の教員は、高校生が興味を持ちやすいテーマと内容を設定し、周到な準備をしてこの講座に臨みました。高大連携教育全体を通して、大学教員と高校生、大学と高校の教職員間の理解が深まりました。生徒と講座担当者に対して事後アンケートを実施した結果、いくつかの課題も見つかり、それらを踏まえて次年度以降もより良い高大連携教育にしていきます。

大学

緊急時に役立つＡＥＤ訓練を実施

大学　防災委員会

例年９月に行なっている防災訓練ですが、2012年度はキャンパスリニューアル工事の関係で２月に実施し、教職員約80人が参加しました。

今回のテーマは「ＡＥＤ実地訓練と工事期間中の避難経路」でした。ＡＥＤ実地訓練では３グループに分かれ、消防署員の方々のアドバイスを聞きながら人体模型を使って体験しました。教職員の中にはＡＥＤにより実際に人が助かった場面に遭遇した人もおり、緊急の場面でＡＥＤが使えるように真剣に訓練を受けていました。

工事期間中の避難経路については委員会メンバーが口頭で説明を行いました。

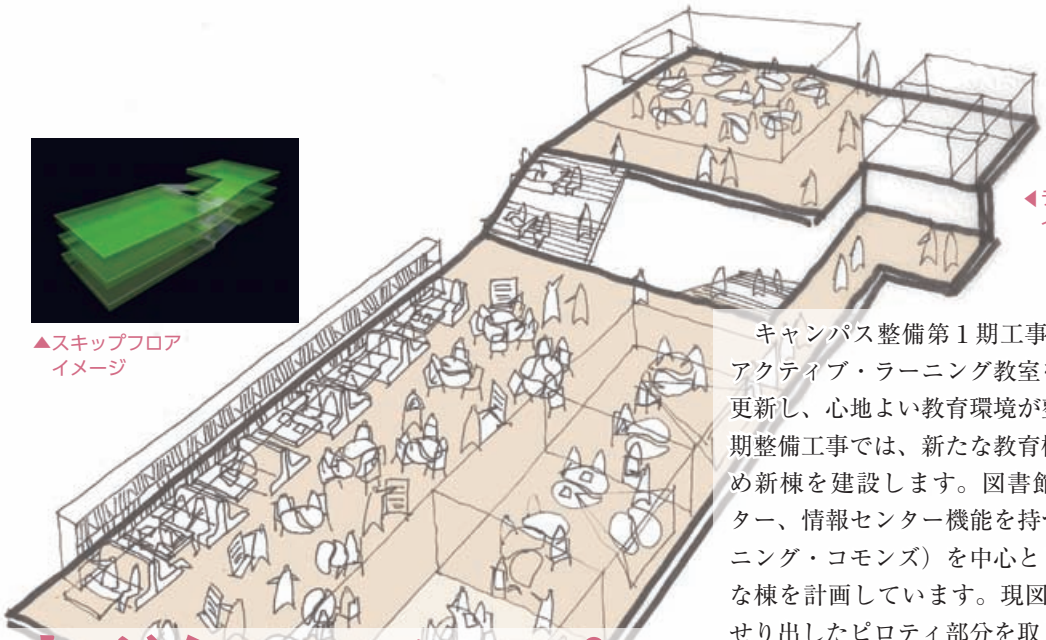
高校

五月晴れの下、地域清掃

東邦高校生徒会正顧問　水谷　光博

学校近隣の地域住民の方、愛知東邦大学の教職員と学生さん、そして東邦高校の生徒会が力を合わせて地域清掃を実施しました。今回は、平和が丘三丁目自治会の方々に、平和が丘住宅自治会、日車マンション自治会の方も加わっての実施となりました。平和が丘学区連絡協議会会長の後藤さんもかけつけてくれました。高校は、生徒会執行部、学園祭実行委員とともにダンス部が大勢参加してくれました。次回は10月に実施します。

▲スキップフロア
イメージ



◀ラーニングコモンズ
イメージ

大学キャンパス 秋から第2期整備工事へ

キャンパス整備第１期工事が完了しました。アクティブ・ラーニング教室を始め情報機器も更新し、心地よい教育環境が整いました。第２期整備工事では、新たな教育構想を実現するため新棟を建設します。図書館、学修支援センター、情報センター機能を持つ複合施設（ラーニング・コモンズ）を中心としたシンボリックな棟を計画しています。現図書館・本部棟は、せり出したピロティ部分を取り壊して耐震性を高め、リノベーションによって有効活用します。2015年春には、地域に開かれた新たな活動の拠点として、全面改装を終えます。

愛知学生サッカー選手権大会 ベストイレブンに選出!

経営学部
地域ビジネス学科４年
安井　利彰

５月に行われた第31回愛知学生サッカー選手権において、大会ベストイレブン（ＤＦ）に選出されました。

東邦高校サッカー部時代はなかなか個人として結果を出せなかったのですが、厳しい練習での下積みの成果もあり、大学では出場機会に恵まれています。今回の大会は２年連続のベスト４入りを果たし、チームの成績にも貢献することができました。ですが僕たちの目指す場所は東海学生サッカー１部リーグなので、今回の結果で満足することなく、次は東海学生サッカー２部リーグの試合で結果を出し、今年こそ昇格という目標を叶えたいと思います。そのためにチーム・個人がよりレベルアップできるよう日々の練習に励んでいきたいです。

フィリピンへのボランティア活動に参加して！

人間学部人間健康学科２年　玉井　杏（あんぬ）

フィリピンに出かけるきっかけは、海外ボランティアで出かけたことのある兄の影響でした。そして、ボランティアに出かけるお金を１年かけてアルバイトし、コツコツ貯めました。ボランティア活動をした場所は、マニラのスラム街です。その街のごみ山の向こうに見えるのは、そびえ立つ高層ビル。同じ国にも関わらずスラムの地から見える景色で貧富の差が一目で解りました。

ボランティアで感じたことは、日本がどれほど恵まれた環境であるかと言うことです。日本に生まれたというそれだけでも幸せなことです。しかし、今の生活をあたり前と考えてはいません。自分を生み育ててくれた両親への感謝の気持ちでいっぱいです。ボランティア行きの背中を押してくれたのも両親や家族でした。

ボランティアに行ったはずの私が、現地の底抜けに明るい子どもたちの笑顔に、逆に励まされました。貧しくても辛くても明るい笑顔の子どもたちから勇気を頂きました。機会があれば、また訪れてみたいと考えています。

Active students

2012（平成24）年度　東邦学園の事業報告

1．総括

2012年度は、東南海三連動地震を念頭に、大学校舎を耐震化し、災害時にも水と電力は一定期間自給できる体制を整備した。エコキャンパスを進める一方、教室を受動的学修から能動的学修へ促すための環境を向上させた。

学生生徒の募集は、大学が2011度に入学定員を４年ぶりに確保したが、2012年度は333人の経営目標を達成できず、302人に落ち込んだ。東邦高校からの入学者も目標70人の半数の35人に留まった。種々の強化策をとった結果、2013年度入試では志願者1,193人、入学者361人と過去最多となった。

東邦高校は、志願動向が底打ちし、2012年度入試は推薦と一般で計2,014人が志願、585人が入学した。2013年度募集では、2,295人が志願し、目標数を大幅に上回る650人が入学した。

2．主要事業の実施状況
ー 創立100周年（2023年）に向けた取り組み ー

⑴中期事業計画の全学的取り組み

2012年度は全3期（15年間）にわたる「創立100周年事業計画」である第1期の中期事業計画I（2012～2016年度）と第3次中期財政計画（同）の初年度となった。事業計画は大学が新学部の開設とコースの再編、高校も新コースの検討に着手した。財政計画は消費税増税法が成立し、支出の見直しを余儀なくされた。建学の精神を最上位に据えた事業計画であるが、学内に広く周知して全教職員が深く意識するところまで至ったとは言いがたい取組みとなった。

⑵寄付金募集の活発化

2011年度税制改正で、個人寄付は法定要件（年額3,000円以上の寄付者が２年間で年平均100人以上）を満たせば、寄付額の約40％が税額控除（確定申告による還付）される制度となった。このメリットを生かして寄付者が広がるよう、法定要件を整えるべく対処した。

⑶創立90周年を見据えた学園OBや後援者との連携強化

90周年事業の概要をまとめた。また高校・大学の同窓会、PTA・後援会、フレンズTOHOとの関係をより深めるために専門機関を組織するとともに、連携を具体化することを目標にしたが、機関を設置するまでに至らなかった。

3．理事会が主導する具体的な政策

⑴安全で安心できる教育環境の整備

大学校舎の耐震化では、Ｂ棟、扇形棟、Ｓ棟アリーナを耐震化し、防災改修を行った。井水設備を更新、太陽光パネルや自家発電装置の設置、防災倉庫の整備など災害時用の設備を整えた。エコキャンパス化では、LED照明、空調機器、節水型の給排水設備を導入した。また、愛知県産のひのきの間伐材を随所に活用して暖かみのある空間とし、学修環境を整備した。高校は、更新時期にあった情報機器について、年度末のICT補助金で一新した。

大学と高校のキャンパスが隣り合う利点を生かし、一体感を意識した避難経路を整備した。防災倉庫を整備し、緊急時用の防災用品や食糧の備蓄を進めることはできなかったが、高校では生徒用の防災キットを備えた。

⑵「高大連携」とその特色を一層生かす教育プログラムの検討

愛知東邦大学と東邦高校は、高大連携会議を通じてタイトな関係を築いた。８月末は納涼音楽祭を催した。高校と大学の学生生徒が出演し、地域の方が多数来訪された。

２月には高校１、２年生に対して高大連携授業を実施。今回は原則として昨年度とは異なる教員を配置して授業を行った。耐震工事の騒音など問題が一部生じたが、有意義で生徒の満足度も高い授業となった。

また、今年度は高校の一般入試で大学を会場の一部に利用、大学の教職員が試験監督役も務めた。

一方、高校から大学への「高大７年」を意識したプログラムを念頭に、志願者、在学生が新たな意欲をかき立てられる環境整備について検討した。大学は、人間学部子ども発達学科を教育学部子ども発達学科へと独立（３学部３学科体制）させる学部設置の事前相談を受けた。新たに小学校課程を追加し、進路選択の道を広げることとした。高校は健康スポーツコースの開設と商業科のコース見直しを検討した。

⑶広報活動の強化

学園・大学・高校の知名度が上がる事業を展開し、学園に関心が向けられるように、学園広報誌など様々な媒体を活用した。今後は体制を整備して、Webページを中心に広報活動のあり方を見直し、より一層発信力を強化していく。

⑷社会（地域）連携の推進

名古屋市高年大学の事業継承や名古屋市との提携については、計画策定まで進まず、頓挫した。引き続き、名東区や平和が丘学区との連携活動を基礎に、現行の教育資源を活かしながら社会人教育や企業、自治体との連携を推進していく。

⑸教職員の教育力の向上

理事研修、FD研修、全学研修など教職員の教育力並びに経営力向上のために積極的に行った。高大の連携事業の一環として、合同研修会を３月４日に開いた。

参加者は129人と過去４年間で最も多かった。進路指導に関する講演を聴いたほか、新たな試みとして、高大の教職員が混合して複数のグループに分かれ、高大の課題についてブレインストーミングを行った。高大の合同行事や教育活動など建設的で具体的な企画が提案され、予期した以上の成果をあげることができた。

⑹事務業務システムの改善

学園の事務全体の運用や執行制度、リスク管理、業務フローなど全般を見直し、情報システムの活用と合わせて改善するため、経理改善WGを立ち上げた。ただ、従来からの課題を全て解決することには至らなかった。

情報システムの整備では、ICT補助に採択され、大学・高校における情報システムの管理・運営業務を学園として一元的に管理できる運営環境の整備を整えた。

⑺諸政策を推進する上での経営管理体制の充実

諸政策の立案・遂行に当っては、教学組織や委員会等が役割を十分果たすよう、理事会が組織運営に努め、中期事業計画を実質化する各専門委員会を整理した。しかし、闊達で縦横に交わされる話し合い、期限を区切った意思決定、構成員が残らず取り組もうとする意識の醸成することはできず、積み残しとなった。100周年に向けて、組織の活性化に取り組む。

財務情報の開示

学校法人東邦学園の財務に関する下記の情報をご請求に応じて開示します。開示の対象者は学園の教職員、在学生又はその保護者・保証人、卒業生、債権者、入学希望者又はその保護者（保証人）です。

・計算書類（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表）
・予算書（資金収支予算書、消費収支予算書）
・事業計画書および事業報告書
・財産目録
・監査報告書

2012（平成24）年度　東邦学園　財務の概要

消費収支の状況では、帰属収入合計は、2011年度を５億2,954万円上回る34億7,720万円となった。増えた主な要因は補助金で、大学校舎の耐震改修工事やICT活用推進工事に係る私立大学等研究設備整備費等補助金、競争的資金である私立大学教育研究活性化設備整備費補助金の採択で、５億7,396万円増の７億3,109万円。高校への愛知県経常費補助金など地方公共団体補助金も263万円増の６億7,972万円、補助金全体では５億7,660万円増の14億1,081万円となった。

学生生徒等納付金収入は前年度を2,983万円下回った。2012年５月１日時点の学生生徒数は2,763人で、2011年度比で高校10人増、大学16人減の全体で６人減だったが、大学で除籍と退学により授業料完納者が64人減ったため、一層の落ち込みとなった。

寄付金は、732万円減って1,465万円となった。前年度は受配者指定で私学振興事業団からの入金分1,400万円があったためであり、それを除くと667万円の増加となった。

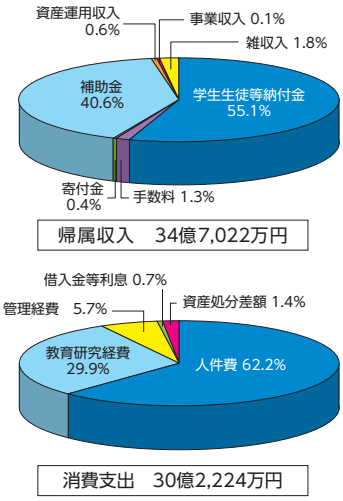
また、基本金組入額は、耐震改修工事による建物および構築物、日進グラウンドのサッカー場照明増設、情報機器を始めとする機器備品、図書等の支出額と借入金返済による組入れ14億9,586万円と除却による取崩し４億9,638万円の結果、当期第１号基本金への組入額が９億9,947万円となった。

一方、消費支出の合計は前年度より1億7,277万円増の30億2,224万円となった。人件費が1,938万円減少して18億8,013万円、教育研究経費が１億4,937万円増の９億423万円となった。これは大学耐震改修工事等にともなう修繕費の増加によるものである。管理経費は218万円増の１億7,173万円となった。

帰属収支差額は４億5,496万円のプラスとなったが、施設設備関連の補助金収入があったためで、基本金組入後の消費収支差額では、５億4,451万円の支出超過となった。

収入および支出の大科目の割合は、図１のように学生生徒納付金収入が55.1%、補助金収入40.6%と収入全体の95.7%を占めている。支出は人件費が全体の62.2%を占めているが、教育経費が29.9%であり、教育研究活動に必要な支出を行っている。管理経費は前年度より0.3%下回り5.7%となった。

〈図１〉



2012年度の収支状況を資金収支でみると、収入額は、2013年度新入生の入学時納付金等の前受金等を含んで40億2,214万円、前年度より繰越しされた20億9,342万円を加えると収入合計は、61億1,556万円となった。

一方、支出は、人件費、教育研究経費、管理経費、借入金返済、施設･設備関係支出等50億1,350万円であり、差し引き11億206万円が次年度への繰越支払資金となった。2011年度末より９億9,135万円減少した。

貸借対照表によると、2012年度末現在の資産の総額は、111億8,678万円となった。内訳は有形固定資産74億4,042万円、その他の固定資産15億8,866万円および流動資産21億5,769万円となり、資産は７億5,653万円増加した。他方、負債は、長期借入金が２億7,689万円減少したが、国の補助金が実際に交付されるまでのつなぎとして短期に借入れたことから、３億157万円増加した。

基本金は104億9,796万円となり、そのうち校地・校舎・機器備品・図書など教育・研究に必要な資産の自己資金調達額を示す第１号基本金が100億9,306万円となった。翌年度繰越消費支出超過額は、５億4,451万円の消費支出超過によって、2012年度末で29億1,672万円に増加した。

2012（平成24）年度 資金収支計算書

（単位：千円）

	科目	24年予算	24年決算	差異
収入の部	学生生徒等納付金収入	1,912,302	1,917,039	△ 4,737
	手数料収入	44,588	46,389	△ 1,801
	寄付金収入	11,669	13,620	△ 1,951
	補助金収入	1,426,220	1,410,814	15,406
	資産運用収入	19,490	20,669	△ 1,179
	事業収入	3,938	3,846	92
	雑収入	63,204	63,790	△ 586
	借入金等収入	868,000	868,000	－
	前受金収入	357,520	408,655	△ 51,135
	その他の収入	300,142	308,773	△ 8,631
	資金収入調整勘定	△ 1,057,545	△ 1,039,451	△ 18,094
	前年度繰越支払資金	2,093,424	2,093,424	－
	合計	6,042,952	6,115,569	△ 72,616
支出の部	人件費支出	1,872,151	1,867,011	5,140
	教育研究経費支出	584,802	564,323	20,479
	管理経費支出	168,663	166,439	2,224
	借入金等利息支出	23,044	22,662	382
	借入金等返済支出	626,577	626,573	4
	施設関係支出	1,257,679	1,257,678	0
	設備関係支出	173,051	137,183	35,868
	資産運用支出	374,181	374,169	12
	その他の支出	26,176	26,176	－
	予備費	48,443	－	48,443
	資金支出調整勘定	△ 26,974	△ 28,712	1,738
	次年度繰越支払資金	915,160	1,102,067	△ 186,907
	合計	6,042,952	6,115,569	△ 72,616

2012（平成24）年度 消費収支計算書

（単位：千円）

	科目	24年予算	24年決算	差異
消費収入の部	学生生徒等納付金	1,912,302	1,917,039	△ 4,737
	手数料	44,588	46,389	△ 1,801
	寄付金	12,659	14,655	△ 1,996
	補助金	1,426,220	1,410,814	15,406
	資産運用収入	19,490	20,669	△ 1,179
	事業収入	3,938	3,846	92
	雑収入	63,204	63,790	△ 586
	帰属収入合計	3,482,401	3,477,202	5,199
	基本金組入額	△ 1,419,155	△ 999,476	△ 419,679
	消費収入合計	2,063,246	2,477,726	△ 414,480
消費支出の部	人件費	1,886,385	1,880,131	6,254
	教育研究経費	923,552	904,235	19,317
	管理経費	175,023	171,739	3,284
	借入金等利息	23,044	22,662	382
	資産処分差額	42,651	42,649	2
	徴収不能額	1,200	827	373
	予備費	48,199	－	48,199
	消費支出合計	3,100,054	3,022,242	77,812
	消費収支差額	△ 1,036,808	△ 544,516	△ 492,292
帰属収支差額		382,347	454,960	△ 72,613

2013（平成25）年度　東邦学園　事業計画

Ⅰ．学園総体で取り組む目標の具体化と推進

今年度は創立90周年であり、学園の新たな出発の年とする。建学の精神が不易の価値、学園の主柱であることを確認し、時代や社会の変化に対応した取り組みを展開・充実させる。

1．建学の精神に則った人づくり ～就業力育成とキャリア教育の推進

下出民義先生が掲げた「真に信頼して事を任せうる人格の育成」。当時の時代認識と90年後のそれは異なる。だが、信頼・信用は個々人の間柄から国家間の関係に至るまで人間社会の基盤をなす。ましてヒト、モノ、カネ、情報が国境を越えて激しく行き交う今、自ら思考し、判断し、表現する力が最も求められる。「事を任せうる人格」である。

「生きる力」を掲げる新学習指導要領も「確かな学力」の項で、「基礎的・基本的な知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力等の育成との両方が必要」とし、「教科等を横断した課題解決的な学習や探究的な活動」を重視している。

生涯を通じて社会的・職業的に自立できる力。それを養う大学の「就業力育成」、高校の「キャリア教育」は、社会からの今日的要請、建学の精神に適った人づくりの姿勢と言えよう。

2．高校と大学が連携する教育 ～「７年間教育プログラム」を目指す

学園の持てる力を最大限活かす方針のもと、高校と大学の日常的な協力と交流を通じて、「７年間教育プログラム」の具体化を進める。高校の１、２年生ほぼ全員が受講する高大連携授業、教職員合同研修会を一層充実させる。「７年間教育」は高大接続教育のモデルとしたい。

「７年間教育」も念頭に置いた大学の学部・学科・コースの再編は、2014年度から３学部・３学科体制でスタートする。高校の新コースの検討と既存学科の見直しも、高大連携が生徒・学生の進路選択に資する、学園の強みを活かすプログラムであると確信、最終的に詰める。

これらを踏まえた内部進学率の向上は、学園の教育条件充実に好影響を与える。大学の定員の２割を目標に、進学者数を高める。

3．地域連携の推進 ～生涯学び続けられる拠点に

学園の知的財産や特色を生かしつつ、「生涯を通じた学びの場」としての存在感を高める。子育て支援、幼児から老年まで楽しめるスポーツ、減災など誰もが求め、関心を向ける分野で、地域の中心となる事業を展開する。民間移管が俎上に上がった名古屋市高年大学の引受けを検討し、社会人の教育機関としての事業を企画する。

設置校が、地域行事に積極的に参加できるよう機会を設ける。フレンズ・TOHOを通じ、企業や自治体との連携による地域活性化に貢献する生涯教育プログラムを開発する。

4．キャンパス整備の促進 ～安全で地域から頼れる場所に

耐震化など安全な学園の施設・設備の環境を整備するとともに、地球環境に配慮したエコキャンパスを目指し、あらゆる活動において、省資源・省エネルギーを推進する。廃棄物の減量化・リサイクルなど環境意識向上の啓発活動を行う。

耐震化が完了していない大学校舎は、第２期キャンパス整備を推進する。

5．90周年諸行事の展開 ～使命感を自覚し存在感をアピールする

創立90周年の諸行事は、関係者に感謝すると共に、教育機関としての使命感を自ら確認する機会とする。また、ブランド戦略の一貫として位置づけ、記念行事や広報活動を通じて、東邦学園・大学・高校の知名度を向上させる。

90周年誌、復刻版・下出民義自傳（解説付き）を編集・発行、Webページを中心に各種媒体を見直し、積極的な広報活動を実施する。

Ⅱ．理事会が責任を持って主導する政策

1．経営計画の進行管理と着実な達成

中期事業計画、第３次中期財政計画と設置校の年度事業計画との整合を図り、経営目標が達成されるよう、専門会議を核に各種事業を推進・調整する。

経営IRシステムを構築し、社会経済環境の変化や競合校の動向を把握・分析しつつ、計画を適切に進める。学園としての入口（学生・生徒募集）と出口（進路保証）対策に取り組む。

大学における自己点検評価や高校での学校評価が一層実あるものにすべく、具体的な評価指標に基づき達成度評価が可能となるよう制度を再設計する。

2．財政面の安定化と強化

教学活動を支える財政基盤は、理事会が責任をもって整備・強化する。

予算編成プロセスを透明化し、高校・大学の主要課題に対して予算を機動的に運用する。事業計画と予算との連動、予算執行状況の把握を四半期毎に行う。

高校の補助金は県当局と県議会への働きかけを一層強める。大学補助金は競争的色彩が増しており、獲得・増額へさらに努力する。

募金活動は90周年を機に継続性を持たせ、同窓生、保護者等と連携した活動とする。

資産運用計画を策定し、リスクも十分勘案しながら検討する。

3．経営ガバナンス

学園を揺るがす大災害、事件、事故など危機への対処方法、リスクマネジメントを強化する。危機対応力の向上を図るため、トラブル対応マニュアルを整備する。

学園の経営責任明確化の観点から、担当理事のための研修を行う。

業務推進の効率性を高めるため、職員の目標管理制度を実行し、事務組織の強化を図る。

平成25年度 資金収支予算書（概要）

（単位：千円）

収入の部 科目	24年予算	25年予算	差異	支出の部 科目	24年予算	25年予算	差異
学生生徒等納付金収入	1,912,302	1,998,490	86,188	人件費支出	1,872,151	1,824,836	△ 47,315
手数料収入	44,588	46,102	1,514	教育研究経費支出	584,802	484,634	△ 100,168
寄付金収入	11,669	45,400	33,731	管理経費支出	168,663	173,261	4,598
補助金収入	1,426,220	832,140	△ 594,080	借入金等利息支出	23,044	19,262	△ 3,782
資産運用収入	19,490	16,703	△ 2,787	借入金等返済支出	626,577	825,930	199,353
資産売却収入	0	200,000	200,000	施設関係支出	1,246,180	253,750	△ 992,430
事業収入	3,938	3,585	△ 353	設備関係支出	173,051	93,105	△ 79,946
雑収入	63,204	29,494	△ 33,710	資産運用支出	374,134	196,589	△ 177,545
借入金等収入	868,000	0	△ 868,000	その他の支出	26,165	26,974	809
前受金収入	357,520	367,390	9,870	予備費	60,000	30,000	△ 30,000
その他の収入	300,141	873,595	573,454	資金支出調整勘定	△ 26,974	△ 38,606	△ 11,632
資金収入調整勘定	△ 1,057,545	△ 422,952	634,593	次年度繰越支払資金	915,159	1,015,372	100,213
前年度繰越支払資金	2,093,424	915,160	△ 1,178,264	合計	6,042,951	4,905,107	△ 1,137,845
合計	6,042,951	4,905,107	△ 1,137,845				

平成25年度 消費収支予算書（概要）

（単位：千円）

収入の部				支出の部			
科目	24年予算	25年予算	差異	科目	24年予算	25年予算	差異
学生生徒等納付金	1,912,302	1,998,490	86,188	人件費	1,886,385	1,829,554	△ 56,831
手数料	44,588	46,102	1,514	教育研究経費	923,552	868,948	△ 54,604
寄付金	12,659	46,310	33,651	管理経費	175,023	178,943	3,920
補助金	1,426,220	832,140	△ 594,080	借入金等利息	23,044	19,262	△ 3,782
資産運用収入	19,490	16,703	△ 2,787	資産処分差額	30,850	300	△ 30,550
事業収入	3,938	3,585	△ 353	徴収不能引当金繰入額	1,200	0	△ 1,200
雑収入	63,204	29,494	△ 33,710	予備費	60,000	30,000	△ 30,000
帰属収入合計	3,482,401	2,972,824	△ 509,577	消費支出合計	3,100,054	2,927,007	△ 173,047
基本金組入額	△ 1,419,155	△ 372,506	1,046,649	帰属収支差額	382,347	45,817	△ 336,530
消費収入合計	2,063,246	2,600,318	537,072	当年度消費収支超過額	△ 1,036,808	△ 326,689	710,119

学園の人事構成

【2013年7月1日現在】

本年度の学園の人事構成は下記の通りです。

◆理事・監事・評議員

理事長：榊　直樹
理事：成田　良一、長沼　均俊
古市　久子、村田　悟
塩澤　敏明、加藤　明彦
木岡　一明、増田　貴治
監事：川竹　敬三、鈴木　基仁
評議員：小野　隆生、古市　久子
澤田　節子、堀田　時弘
村田　悟、佐々木泰裕
水谷　光博、蔡　賢治
戸谷　正行、森川　早苗
塩澤　敏明、高山　仁惣
松浦さくら、牧　潤一郎
大矢　正成、大矢　郁夫
岩田　雅明、柴田長兵衛
遠山　眞人、下出　啓介
嶺木　昌行

◆法人事務局

法人事務局長：増田　貴治
法人事務局次長：堀田　時弘
法人事務局課長補佐：池田　暁生
広報課長：西　弘美
広報課長補佐：奥田　緑
以下大学同役職兼ねる
企画課長：西　弘美
総務・経理課長：二宮加代子
総務・経理課長補佐：貫名　正樹
総務課長補佐：藤川　久孝
総務課長補佐：三輪　哲也

◆大学

学長：成田　良一
学長補佐：浅生　卯一
経営学部長：小野　隆生
経営学部地域ビジネス学科長：高木　靖彦
人間学部長：古市　久子
人間学部人間健康学科長：澤田　節子
人間学部子ども発達学科長：後藤　永子
図書館長：山極　完治
情報システムセンター長：高木　靖彦
学修支援センター長：中山　孝男
学修支援副センター長：矢内　淑子
地域創造研究所長：御園慎一郎
入試委員長：杉谷　正次
教務委員長：葛原　憲治
就職委員長：橘　廣
学生委員長：矢内　淑子
図書館委員長：山極　完治
情報システム委員長：高木　靖彦
地域国際交流委員長：御園慎一郎
総務委員長：堀　篤実

◆大学事務局

学長補佐・事務長：増田　貴治
事務次長：堀田　時弘
〃：齋藤　周一
教務課長：藤井　玲子
学生課長：柴田千登勢
学術情報課長：黒柳　好子
入試広報課長：村上　道治
就職課長代理：長沼　英樹
教務課長補佐：新村　健
教務課長補佐：富田　敦史
教務課長補佐：山際　史子
学生課長補佐：阪口　将史
学術情報課長補佐：山田　智代
入試広報課長補佐：奥田　緑
入試広報課長補佐：太田　勉

◆高等学校

校長：長沼　均俊
学内理事：村田　悟
教頭：佐々木泰裕
〃：藤本　紀子
校務部長：寺島多岐夫
教務部長：岡本　洋美
生活指導部長：山田　博子
進路指導主事：森田　美樹
国際交流室長：伊藤　保憲
保健指導主事：渡邉　素幸
生徒会正顧問：水谷　光博
事務部長：袴田　克彦
学年主任第1学年：桜井　秀樹
学年主任第2学年：濵砂　孝
学年主任第3学年：髙倉　清文
学科主任商業科：山本　俊秋
学科主任美術科：小塚　康成
コース責任者文理特進：稲葉　益夫
教科主任　国語科：松永　早苗
〃　社会科：志水　和志
〃　数学科：宮田　賢二
〃　理科：古谷　嘉
〃　保健体育科：横井　由弦
〃　芸術科：加藤　広士
〃　英語科：平岡　広子
〃　家庭科：田中　瑞穂
〃　商業科：大上　雄示

地域創造研究所

「減災研究会」を継続開催

愛知東邦大学　地域創造研究所

2011. 3. 11に発生した東日本大地震は国民の災害に対する意識を大きく変えることになりました。地域創造研究所においても震災直後から地域防災の観点で研究会を開催してきました。2011年度は被災現場の救助・復旧活動に携わってこられた方からのお話を伺い、震災の実情を理解することに努めました。2012年度は地元の消防行政の力も借りて自分たちの住んでいる地域の状況を歴史的、地政学的に学びました。「その時」に、住民一人ひとりに求められる「備え」や避難場所の設営、運営方法を予行演習をするなど、地域としての「備え」が必要であることを学びました。

本年度の６月22日（土）の減災研究会では大規模地震災害に対する「備え」を考えるために『その時何が起こったか？何が必要か』をテーマとして、女川中学校防災担当主幹教諭　佐藤敏郎氏に被災の現場での体験談など当時の状況をご報告いただきました。震災前の防災訓練はまったく役に立たず、避難誘導の放送や電話による安否確認もできない状況は、日常私たちが考える危機感覚を超えているものでした。

また、震災後に中学生が作った俳句が披露されると、涙を流す人々も多くいました。

続いて、愛知県防災局災害対策課の岡田晴道氏から『県民総ぐるみ防災訓練とあいちシェイクアウト訓練の提案』がなされました。

次回　減災研究会
「学校として子どもたちをどう守るか
～東日本大震災からの教訓～（仮）」
◆月日　平成25年10月５日（土）
◆場所　津島市文化会館（小ホール）

「地球のステージ２」公演

愛知東邦大学地域創造研究所では、昨年度「地球のステージ１」を開催しましたが、公演後、参加された方から感動の言葉がたくさん寄せられました。そのご声援にお応えし、今年度も引き続き「地球のステージ２＋復興篇」を開催することになりました。

◆日時：2013年10月13日（日）
14：30開演
◆場所：愛知東邦大学

メーション

学校法人「フレンズ・TOHO」

「フレンズ・TOHO」は、みなさんをお待ちしています!

フレンズ・TOHOでは、様々な催しや交流の場を設けています。興味のある方、参加してみたい方は、フレンズ・TOHOまでご連絡ください。お待ちしています。

TEL：052－782－1241
フレンズ・TOHO事務局
Mail：friends@aichi-toho.ac.jp

この春、中山道をたずねて「いい旅」をしました。タイムスリップを味わった歴史の道。皇女和宮にも思いをはせることができました。版画体験もできた「旅」でした。

夏にも、また「いい旅」をしたいと思いますし、子ども向け企画も充実させました。是非、ご参加ください。

《夏の企画》

その１.「赤沢美林への旅」　８月３日(土)

「森林浴」発祥の地「赤沢美林」。平成13年には「環境省かおり風景100選」に選定された「森とかおりの名所」です。園内には「森林鉄道」が保存されており、土・日・祝日を中心に運行されています。これも楽しみの１つです。是非、夏の終わりの旅を楽しみましょう。

その２.「ドッジボール大会」　８月10日(土)
・愛知東邦大学

「東邦学園創立90周年」を記念して、「トーくん・ホーちゃん杯・ドッジボール大会」を開催します。出場チームは、名東区を中心に活躍している小学生チーム。いずれも「強豪チーム」とのこと。楽しみです！

その３.「親子理科実験教室」　８月５日(月)
・東邦高等学校

昨年、初めて企画して大好評だった「理科実験教室」－今年も開催します。

昨年は、ドライアイスでアイスクリームをつくりましたが、今年は一体、どんなことが体験できるのか？期待して、どんどん参加申し込みしてください。

その４.「親子スイーツ講座」　８月22日(木)
・東邦高等学校

「親子でスイーツ」－何て楽しみな響きでしょう。はてさて何ができあがるか？当日をお楽しみに！受講料は無料ですが、材料にかかる実費だけ徴収させていただきます。

邦友会

卒業生親族の入学が急増

愛知東邦大学同窓会　邦友会

東邦学園創立90周年にあたりお慶び申し上げます。

今年度邦友会では、90周年事業と21・TOHO募金に寄付することを５月の運営委員会で決議しました。また今年は育英奨学金に該当する学生も急増しています。

そして春の区民まつりに参加、秋の大学祭にも参加協賛予定です。大学祭では金券・模擬店と卒業生が作る無農薬野菜の野菜市を出店する予定です。

春の区民まつりのわらび餅

小学校教諭、幼稚園教諭、保育士を目指す人の新・教育学部、誕生！

New
教育学部
子ども発達学科
2014年4月開設予定
設置届出中

愛知東邦大学の子ども発達学科は保育士、幼稚園教諭を輩出してきました。
2014年度からは新しく小学校教職課程を加え、教育学部として歩み出します。
経営学部・人間学部もコース内容が変更になります。新しい３学部を紹介します。

経営学部　地域ビジネス学科

総合マネジメントコース
起業・ビジネスリーダーコース
オフィスマネージャーコース
広告・メディアコース
観光・サービスコース
スポーツマネジメントコース

愛知東邦大学は、全国に先駆けて「地域ビジネス」を専門的に学ぶ学科を創設しました。

人にはそれぞれ異なる個性や能力があるように、各地域にも特有の個性、財産があります。

それらを有効に生かし、ビジネスを通じて地域産業の活性化、地域社会の発展に貢献する、そのための知識や技術を「経営学部」では幅広く総合的に学びます。

人間学部　人間健康学科

スポーツトレーナーコース
スポーツ指導者コース
健康づくり指導者コース
心理・カウンセリングコース

さまざまな視点や分野から「人間」についての総合的な理解を深めます。

人間が生まれてから死ぬまでの一生（ライフサイクル）に直接関係する重要な専門分野の高度な知識と技術を身につけ、地域社会に貢献できるエキスパートを育成します。

教育学部　子ども発達学科〈2014年４月開設予定　設置届出中〉

小学校教諭、幼稚園教諭、保育士を目指す人の
新・教育学部、誕生！

子どもの発達を支える保育・教育のプロを育成します。人類の宝物である子どもたちの今と未来を輝かしいものにするための学部です。

特色は豊かな表現力、幼児教育と小学校教育の連続性です。小学校英語教育やＩＣＴ教育活動にも取り組みます。

東邦学園同窓生入試

愛知東邦大学・東邦学園大学・東邦学園短期大学・東邦高等学校の卒業生の子、または愛知東邦大学在校生または卒業生のきょうだいに対して入試を実施します。特典として愛知東邦大学入学金が半額になります。

一般入試に比べ条件も有利です。ぜひこの機会にご利用ください。

行事予告

その他行事

★TOHOわくわくフットサルフェスタ
8／3(土)14：00〜
愛知東邦大学　日進グラウンドにて

★受験生対象ＡＯガイダンス
9／8(日)、11／3(日)、11／24(日)

★大学祭
11／9(土)、11／10(日)

★学校説明会　※事前申込不要
10／26(土)、11／9(土)、11／30(土)
いずれも10：00〜12：00

★美術科説明会　※事前申込不要
11／16(土)　13：00〜

★中学生英語スピーチコンテスト　※要申込
11／3(日)　9：00〜13：00

★グラフィックデザインコース講習会＆説明会
11／16(土)　10：00〜12：00　※要申込

中学生も参加できる行事

☆文化祭　※中学生は制服＋生徒手帳持参で入場可
9／28(土)　10：00〜

☆美術科・グラフィックデザイン卒業制作展　※入場無料
11／12(火)〜17(日)　10：00〜　愛知県美術館にて

詳しくはホームページをご覧ください。
http://www.toho-h.ed.jp/

愛知東邦大学
経営学部　地域ビジネス学科
人間学部　人間健康学科
教育学部　子ども発達学科
※2014年４月開設予定(設置届出中)

東邦高等学校
普通科(文理特進・アクティブ・チャレンジ・サイエンス)
商業科(情報・経理・グラフィックデザイン)
美術科(日本画・油絵・彫刻・デザイン専攻)

TOHO gallery 東邦ギャラリー

高校　藤が丘案内図完成（関連記事　４ページ）

高校　１年学級合宿（関連記事　４ページ）

大学　硬式野球部（関連記事 12ページ）

高校　ダンス部（関連記事　９ページ）

大学　学生会主催ドッジボール

高校　水泳部（関連記事 11 ページ）